

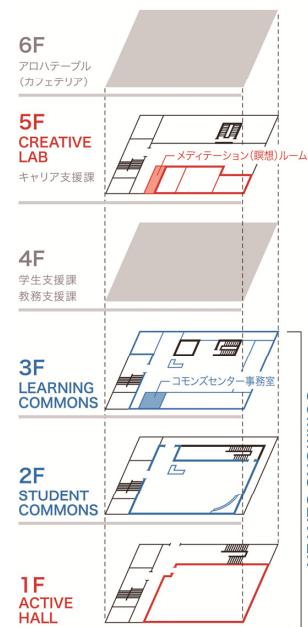
学生自らの力で創る、学修スペース

春日井キャンパス 不言実行館 ACTIVE PLAZA「コモンズセンター」



不言実行館 ACTIVE PLAZA

フロアガイド



不言実行館は
コモンズセンター以外にも、学生支援課、教務支援課や、カフェテリアが入る学生支援センター棟

3階は目的に応じてグループや、個人での活動を想定した様々なエリアが整備されているラーニングcommons（上）
2階はイベントやグループでのにぎやかな活動を想定した大空間となっているスチューデントcommons（下）

【ポイント】

学生が自ら「創る」余地のある整備

学生のニーズに合わせてカスタマイズ

- 什器は、学生自らが自由に動かしやすく、追加整備にも柔軟に対応できるよう、空間に対して余裕をもたせて配置。

活動が見え、相互刺激を生む整備

- 2階は間仕切りのない大空間として整備。
- 3階はラーニングエリアを中心に様々なエリア分けがされているが、間仕切りはガラスとしている。

運営の主体は学生が担う

- インターンシップの位置づけで、学生が「コモンズサポーター」として活動。
- イベントの企画・運営からコモンズでのトラブル対応まで学生が行い、職員はサポートに徹することでサポーターの成長を促す。



3階 ガラスで仕切られたプレゼンテーションルーム



2階の受付カウンター モニタに流れるコモンズセンター紹介動画はサポーターが企画し、撮影、編集したもの

整備による効果

グループでの活動が増加

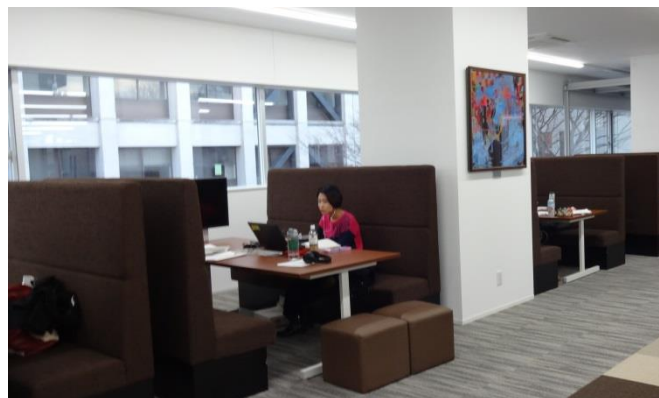
- 授業準備のための他学部と合同のグループワークや、プレゼン練習等での利用が増加している。

教え合いが自然に発生、拡大

- 学生が自ら集まって学修する様子が見られるようになった。その輪に一人二人と学生が加わり、一人で集中して学修することだけでなく、互いに教え合いながら学修する場が自然に生まれている。

学生の活動拠点として機能

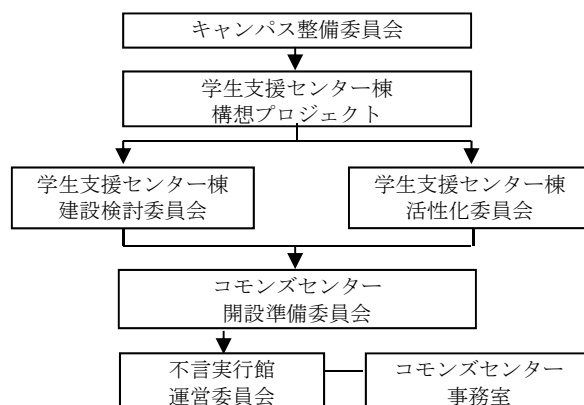
- 登校後、コモンズセンターを中心として授業や課外活動へ繰り出し、また自修のために戻るような、活動拠点としての利用が出始めている。



2～4名程度のグループ学修に人気の3階アクティブボックス
ファミリーレストラン風のボックス席にモニターやホワイトボードを設置

整備の背景・目的

- 平成26年に開学50周年を迎えるにあたり、建学の精神である「不言実行 あてになる人間」を具現化できる学生支援センター棟の構想が出された。「学生が自ら学び体験し、学部学科を超えて交流し、人間力を高める教育空間」をコンセプトに、設計が進められた。
- また、学部学科増に伴う学生数増加に対する学生支援窓口サービスの相対的な低下も整備のきっかけとなった。
- 計画は教職協働で進められ、特に「活性化委員会」には若手教員が多く参加。学生の意見も教員を通して計画に反映された。



更なる展開

グループ単位の学修活性化

- グループ単位の学修の更なる活性化に向け、学生の行動や心理を引き続き分析すると共に、教員に対する普及活動を進める。

バックヤードの確保

- 予備のイス等の保管場所、コモンズサポーターが作業や打ち合わせをする控室が必要となってきた。コモンズサポーターの活動を更に充実させるために、バックヤードの確保を検討している。